

第7分科会

東 洋 医 学 会

日 時：令和4年11月27日(日) 9:00～16:00

会 場：大分県医師会館

〒870-8563 大分市大字駄原2892-1

TEL 097-532-9121

講演会責任者：大分大学医学部産科婦人科学講座

西 田 欣 広 (大分県部会長)

● 事務局 ●

〒879-4403 大分県玖珠郡玖珠町大字帆足259

高田病院 担当：山下太郎

TEL 0973-72-2135

FAX 0973-72-3641

Email urourod@gmail.com

第7分科会 東洋医学会

プログラム

令和4年11月27日（日）

一般演題 12題（9：00～11：30）

九州支部総会（11：40～11：55）

ランチョンセミナー（12：00～12：50）

座長：西田 欣 広（大分大学医学部産科婦人科学講座 診療教授）

演者：小田口 浩（北里大学東洋医学総合研究所 所長）

演題：「コロナが再認識させてくれた漢方医学の役割
～感染症治療から後遺症治療まで～」

特別講演Ⅰ（13：00～13：50）

座長：西田 欣 広（大分大学医学部産科婦人科学講座 診療教授）

演者：渡辺 賢 治（慶應義塾大学医学部漢方医学センター 修琴堂大塚医院）

演題：「証の科学化」

特別講演Ⅱ（14：00～14：50）

座長：阿南 栄一朗（酒井病院呼吸器内科 大分県部会副会長）

演者：山岡 傳一郎（愛媛県立中央病院漢方内科・松山記念病院精神科）

演題：「系（システム）としての傷寒論」

教育講演（15：00～15：50）

座長：山下 太郎（高田病院 院長 大分県部会副会長）

演者：織部 和 宏（織部内科クリニック院長）

演題：「皮膚疾患の漢方治療」

証の科学化

慶應義塾大学医学部漢方医学センター 修琴堂大塚医院

渡辺 賢治

2022年、WHOの国際疾病分類第11版（ICD-11）が発効された。ICDは1900年からの歴史を有し、およそ10年の間隔で改訂されてきた。ICD-11は1990年にICD-10が発行されて以来32年ぶりの改訂となったが、デジタル化時代に対応した画期的な改訂となった。従来であれば紙媒体を普及させて活用されるところが、ICD-11は発効と同時に35か国でデジタル利用が始まっている。

このようにICD-11には画期的な点がいくつもあるが、日本東洋医学会として特筆すべきことは新たに伝統医学の章が設けられたことである。120年以上のICDの歴史の中で伝統医学の分類が入るのは初めてである。

伝統医学の章は伝統医学疾病と伝統医学の証の2つからなる。それぞれの分類数は163と209である。筆者は2005年からWHOの伝統医学分類の開発に携わってきて、日中韓三か国の伝統医学に対する方針の違いを身近に感じてきた。その間の取り組みは、漢方の臨床誌64巻5～8号（2017）に「伝統医学が国際疾病分類（ICD）に入る意義」として4回にわたり紹介したので、機会があればお読みいただくと幸いである。

伝統医学分類に関しては、中国は1995年および1997年に国家基準の分類を作成し、その数は疾病が1138、証が2315である。韓国も伝統医学分類を作成し、2011年の韓国版ICDに組み入れた。2016年の改訂での証の数は168である。しかしながらわが国には国の定める伝統医学分類が存在しなかったため、学会として作成した。その際に考慮したのは、伝統医学分類がわが国で幅広く用いられるためには、漢方を日常診療で用いている9割の医師に対して分かりやすい分類とし、なおかつデジタル化時代に対応したものにすることであった。そうして作成されたのが、日本の証診断の分類である。この分類は日中韓の激しい議論を経て、ICD-11の伝統医学章の中に組み込まれた。虚実、寒熱を一つずつ選択し、急性熱性疾患であれば六病位から選択し、慢性疾患の場合は気血水から選択する、というものである。特に虚実に関してはその解釈においてかなり激しい議論があった。

こうして作成された日本版の証分類であるが、医師間の再現性や、同じ医師における再現性など課題が残る。慶應義塾大学医学部漢方医学センターでは平成20～24年度厚生労働科学研究費医療技術実用化総合研究事業の助成を受けて、漢方の特徴を生かしたエビデンスのあり方について研究してきた。まずは、リアルワールドデータが集積できるプラットフォームを作成した。具体的には、患者報告アウトカム（PRO）のVAS表示を組み入れた患者問診をデジタル入力する。医師側からは診察所見、ICD病名、漢方の証、薬方を入力し、データを蓄積してきた。その成果の一部は15報の英文論文で報告してきた。

本発表では、「証の科学化」という大きなテーマについて、それを意識して「証分類」を決めるところから、リアルワールドデータで、見えてきたもの、および今後解決すべき課題についてお話できれば幸いである。

■講師略歴

渡辺 賢治先生 略歴

修琴堂大塚医院 院長

慶應義塾大学医学部漢方医学センター 客員教授

横浜薬科大学特別招聘教授

1984年慶應義塾大学医学部卒、医師・医学博士

慶應義塾大学医学部内科、東海大学医学部免疫学教室、米国スタンフォード大学遺伝学教室、北里研究所（現：北里大学）東洋医学総合研究所、慶應義塾大学医学部漢方医学センター長、慶應義塾大学環境情報学部教授・医学部兼任教授などを経て2019年より現職。

日本内科学会総合内科専門医、日本東洋医学会漢方専門医

日本臨床漢方医会副理事長、漢方産業化推進研究会理事長、

神奈川県顧問・奈良県顧問WHO国際疾病分類伝統医学委員会共同議長、

WHO医学科学諮問委員等を兼ねる。

■主な著書

漢方で感染症からカラダを守る ブックマン社 2021

未病図鑑 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2020

漢方医学 同病異治の哲学 講談社学術文庫 講談社 2019

マトリックスでわかる！漢方薬使い分けの極意 南江堂 2013

日本人が知らない漢方の力 祥伝社 2012

今日の治療薬（分担執筆）南江堂 2022

薬がみえる 第1巻（第2版）（分担執筆）メディックメディア社 2021

セルフメディケーション／

一般用医薬品・漢方薬・保健機能食品（臨床薬学テキストシリーズ）（分担執筆）中山書店 2021年

月刊アグリバイオ「高品質漢方生薬原料の生産と漢方の六次産業化」（分担執筆）北隆館 2021年8月号